

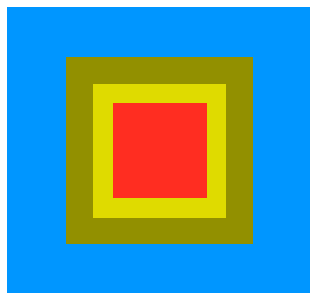
発行 千葉明德短期大学 千葉市中央区南生美町 1412・TEL: 043-265-1613・FAX: 043-265-1627・mail: tandai@chibamitoku.ac.jp



千葉明德短期大学 MAGAZINE 『月歩学歩』 2017年10-11月号

いい顔、見たわよ
不自然でない笑顔
笑いたくない時もあるさ
外へ、外でわくわく体験





10-11月号の内容

フィールドワークわくわく体験特集号

- ❖ スペインの文化に触れて 3
- ❖ 舞台芸術への招待 5
- ❖ お話ライブをしよう 7
- ❖ 東北スタディツアー 8
- ❖ 生活と文化を考える - 利賀村 9
- ❖ 富士山の頂から観る 11
- ❖ 世界の最貧国 カンボジアの子どもたち 13
- ❖ Sense of Wonder in Nepal 15

■ 表紙写真

由田新

「生活と文化を考える-利賀村」フィールド体験研修中の学生たちが世界遺産相倉合掌集落にて

■ 編集

深谷ベルタ、久保瑤子

スペインの文化に触れて

田中 葵・明石 現



■ 到達目標：概要

北スペイン・カンタブリア州都サンタンデルにある、アタウolfo・アルヘンタ音楽院との相互交流となっています。現地では、一人ひとり、音楽院の生徒の家にホームステイをさせていただきながら、歴史的な街の散策、幼稚園訪問、音楽院での共同コンサート等を行います。

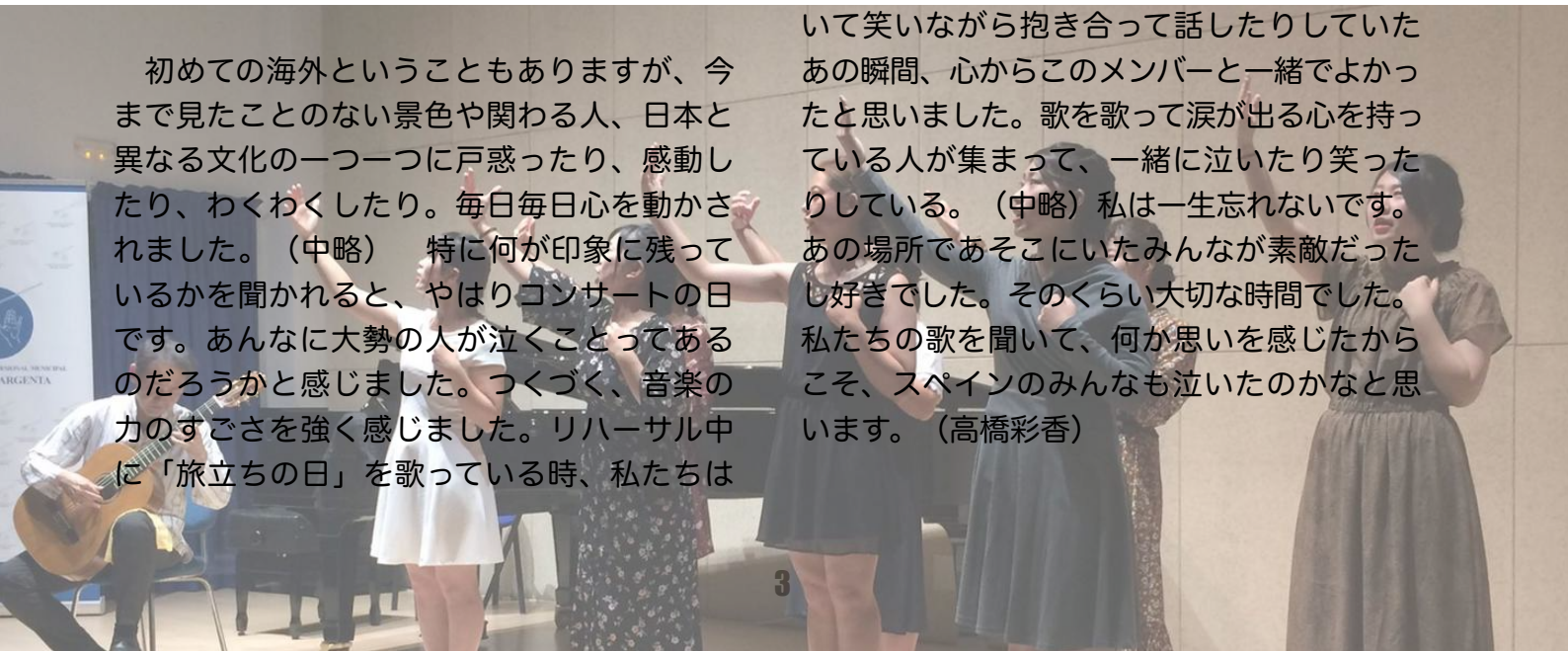
タイムスケジュール

日程	内容
9/7 (木)	羽田空港 (日本) 発▶ヒースロー空港 (イギリス) 乗換▶ビルバオ空港 (スペイン) 着
9/8 (金)	サンタンデル市内観光、フラメンコ鑑賞
9/9 (土)	ホームステイ先の家族と過ごすファミリー・デー
9/10 (日)	サンタンデル市内観光、ドラム・サークル・ワークショップ参加
9/11 (月)	幼稚園訪問、サンティジャーナ、コミージャス散策
9/12 (火)	幼稚園訪問、フラメンコ・ワークショップ体験、
9/13 (水)	アタウolfo・アルヘンタ音楽院にて現地学生との共同コンサート、お別れパーティー
9/14 (木)	ビルバオ空港 (スペイン) 発▶ヒースロー空港 (イギリス) 乗換▶成田空港 (日本) 着

■ 学生の感想

初めての海外ということもありますが、今まで見たことのない景色や関わる人、日本と異なる文化の一つ一つに戸惑ったり、感動したり、わくわくしたり。毎日毎日心を動かされました。(中略) 特に何が印象に残っているかを聞かれると、やはりコンサートの日です。あんなに大勢の人が泣くことってあるのだろうかと感じました。つくづく、音楽の力のすごさを強く感じました。リハーサル中に「旅立ちの日」を歌っている時、私たちは

泣いて歌っていて、歌い終わってからも、泣いて笑いながら抱き合って話したりしていたあの瞬間、心からこのメンバーと一緒によかったと思いました。歌を歌って涙が出る心を持っている人が集まって、一緒に泣いたり笑ったりしている。(中略) 私は一生忘れないです。あの場所であそこにいたみんなが素敵だったし好きでした。そのくらい大切な時間でした。私たちの歌を聞いて、何か思いを感じたからこそ、スペインのみんなも泣いたのかなと思います。(高橋彩香)



私は今回のわくわくで、言葉で表現できないほどの体験をすることができました。行く前は、言語の壁など不安要素が多く、心配していました。でも実際は、空港に着いた時からハグをして挨拶をしてくれたり、英語で互いに考えながら言葉を伝え合ったりと、コミュニケーションの取り方を肌で感じることができました。（中略）コミュニケーションに必要なことは言葉だけではなかったりと、人として学べることが沢山ありました。私はこのことを胸に置き、人として成長していこうと強く思います。帰国して一か月経った今でも鮮明に覚えています。この出逢いを大切にしていきたいと思います。（後略）（河野真夕）

私が素敵だと思ったのは人への関わり方です。特に家族の在り方です。まず朝起きるとお母さんが朝ごはんを作っています。そして「おはよう」と挨拶をします。（中略）そして帰ると家族が迎えてくれてハグをしていました。そしてみんなでごはんの準備をして、家族みんなでごはんを食べます。お互いのことをよく見ていて、水がなくなっていると誰かが気づき、「水いる？」と声をかけ注ぎます。寝る時は必ずハグをして部屋に入ります。私はこの1日の家族の流れがとても素敵で幸せなことだと思いました。なぜなら、私たちが忘れ始めていることだと思ったからです。（後略）（山本明日香）

（前略）今回、私がスペインに行くことができたのは、明石先生が10年前からスペインの方とのかかわりがあったからで、そして私が千葉明德短期大学に入学し、明石先生と田中先生と出会って…このように人と人とのつながりがあったからです。人とのつながりが、更に他の人とつながって、どんどん続いていることも見え、人とのつながりの凄さや大切さがわかりました。人とのつながりのおかげで、世界が広がりました。（松尾実紅）



舞台芸術への招待

古山 律子



■到達目標

- ・舞台芸術の魅力を探り、「舞台芸術とは何か」「芸術創造とはいかなるものか」について考え、述べることができる。
- ・単に楽しむだけでなく、舞台芸術の魅力を自分の言葉で語るできるようになる。

■授業の概要

歌舞伎、人形劇、バレエ、ミュージカルの歴史的背景や概要について事前学習を行ってから、劇場で芸術家の表現を鑑賞する。単に楽しかった、面白かったで終わらせず、それぞれの舞台芸術に関する自分なりの理解を含めて鑑賞レポートを作成する。最後に、自分の考えをまとめ、芸術に関する教養を高めていく。

■タイムスケジュール（H29年度）

日付	場所	内容
8. 10 (金)	歌舞伎座	八月納涼歌舞伎 第一部「刺青奇偶、玉兎、団子売」観劇
10. 28 (土)	新国立劇場	バレエ「くるみ割り人形」観劇
11. 19 (日)	ブーク人形劇場	人形劇「くまのこウーフ、がんばれローラーくん」 観劇 人形劇ワークショップ「フェルト片手人形」
1. 5 (金)	電通四季劇場 海	ミュージカル「アラジン」観劇

※各回、学内での事前・事後学習を実施しています。



現在継続中のフィールドワークですが、今回の報告は、バレエ鑑賞を終えた学生の感想を掲載させていただきます。

・初めて目の前でみたバレエは、異世界にいるような感覚と共に、なぜかとてもキラキラしているものを見ているかのようでした。あらすじを読んでいたので、なんとなく自分の中で一つのシーンを重ね合わせながら考えることができました。2幕の様々な国の踊りでは、展開が早く見ていてとても興奮し、「次は…。次は…。」と期待して気持ちが高まっている自分がありました。フィナーレの部分はこれまで以上に輝いていて、なぜかウルツと涙がでるような感覚でした。今まで見てきたものの中で、本当に一番で、見て本当に良かったと改めて思いました。自分の大切な人といつか一緒に鑑賞して、気持ちを分け合いたいと考えました。

・今日初めてバレエを鑑賞しました。生演奏はどのくらいの音の大きさなのか、言葉はないがストーリーが分かるのか、途中で寝てしまわないかなど、鑑賞する直前まで緊張と期待の気持ちでいっぱいでした。まず、オーケストラの演奏から始まりました。想像していたよりも音が大きすぎず、こちよい音の大きさでした。また、セリフはありませんでしたが、演奏が切り替わるので場面・場面がとても分かりやすかったです。雪の結晶が出てきた場面で人の歌声のように聞こえてきて、とてもきれいな音だと感じました。セリフがないので、事前に読んだあらすじや登場人物を考えながら見ていたので理解しやすかったです。一番印象に残ったことは、想像よりもネズミがリアルでこわかったこと、雪の結晶と花のワルツの衣装がとてもかわいかったことです。本当に雪の結晶やお花畑のように見えてきれいでした。衣装、音楽、動き、背景が一つになり、物語が進んでいるのを感じました。

・始まって数秒後に思ったことは、これは映像なのかと思うほど美しいものだという事です。人の動き、音楽など全てが息の合っているもので、人間ってこんなに息を合わせることができるのかと感心してしまいました。

また、終始考えていたことは“言葉のない表現”についてです。バレエは言葉がないのですが、言葉がなくてもその場の雰囲気が伝わってきました。それはきっと、表現をしている人の表情や動き、音楽からではないかと思います。細かい動きや大きい動きなど、こんなにもその場の空気が伝わるのだと分かりました。パーティの場面で、誰かが口に手をあててニコニコしているだけで笑い声が聞こえてきそうだったり、ドロツセルマイヤーがプレゼントを渡ただけで子どもたちの歓声が聞こえそうでした。バレエは踊りの世界だとばかり思っていたけれど、実は演じる世界だと気付きました。さらに声や言葉がない分、ただ役をやるより難しいのではないかと思います。初めてのバレエにわくわくしながら行ったのですが、知らないバレエの世界の深さに圧倒されました。

そして、最後には何度も何度もバレリーナの方をはじめ舞台上の方たちがお辞儀をしているのが印象的でした。お客さんの拍手や「ブラボー」という声援でとても嬉しそうに見えました。たくさんの努力を重ねてきた方々にとって、拍手というものはとても素晴らしいものを感じるのではないかと思います。





お話ライブを しよう

高森 智子



私は、子育て支援に関わりたい、実践力を付けたい、と思い、お話ライブコースを選択しました。

毎回、「こうすればもっと楽しいかな、お母さんも子どもも喜んでくれるかな」と、プログラムを考えました。例えば、こちらが演じるだけだと、子どもが飽きてしまうと反省し、次回からふれあい遊びを取り入れたりしました。

まだまだ表現力が足りなかったり、恥ずかしさが出たりして、自分の未熟さを感じますが、仲間や、指導してくださる高森先生のおかげで、切磋琢磨しながら、学びにつながっていると思います。そして何より、見てくれた親子の反応、感想がとても嬉しかったです。なぞなぞのパネルシアターをした時、3歳位の男の子が答えて嬉しそうにしているのを見て、私も嬉しくなりました。お母さんから、「また楽しみにしています」という言葉をいただいたことも、励みになりました。

お話ライブを企画する中で、知らなかった手遊びや絵本を知ることができ、自分の引き出しが増えたと感じます。そして親子の喜ぶ顔が見たいから、上手く演じたい、と思えました。どうもありがとうございました！（M.Iさん）

この活動は現在学生二人で活動していることもあり、必然と一人二つ三つの出し物を担当することになります。全体の流れを考えながら、それぞれが新たにお話の小道具などの作成・練習を重ねて当日を迎えます。育児・大学の課題・実習準備などと並行してこの作業を続けるのは大変なこともあります。就労してから限られた時間で物事を形にしていくスキルは必要不可欠と思い取り組んでいます。

当初は発表を形にすることに必死で、受け手の保護者・子どものニーズを考えることができず、こちらがやりたいことをただ行う独りよがりなところがありました。発表をすれば当然反応があり、次回の客数などに評価として表れます。それを真摯に受け止めつつ、後日様子を映像で振り返り、教員からのアドバイスなどを受けながら次回の活動に反省を反映させてプログラムを考えます。次第に活動中も場を冷静に見つめ、場の盛り上がりや親子のやり取りに気が配れるようになっていく自分に気がつきました。

活動を見て声を上げて笑う子どもを見てほっとしたような表情を見せる保護者、そして笑顔の保護者を見て逆に笑顔になる子ども双方の様子を見て、子育て支援のあり方を再度考えさせられる機会にもなりました。来ていただける親子がほんわかとした気持ちになれる、そんなお話会にしていけるよう今後も頑張っていきたいと思えます。（M.Hさん）

東北 スタディ ツアー

金子 重紀

■ 概要 昨年まで、東北スタディツアーとして児童養護施設「ひかりの子学園」の児童と一緒に、岩手・福島をまわっていましたが、今年は現代社会論加藤コース希望者と一緒に福島のみをまわってきました。原発事故の問題により焦点を当てて学ぶことを目的としたからです。

■ 日程

8月14日

12時 道の駅『四ツ倉港』到着・・・昼食

13時～16時 双葉町、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町見学（現地ガイドによる）

17時 南相馬市 農家民宿「森のふるさと」 泊

8月15日

9時～12時 『福島原発』周辺20キロメートル ガイドツアー（NPO法人野馬土）

13時～ 飯館村付近見学

17時 宿泊体験館 泊（地元の方々と同宿）

8月16日

8時 出発 会津電力雄国発電所見学

13時 三春町 「武藤類子さん」と語る会
後、帰路

わくわく東北の参加者4名、加藤コース4名の参加者で、原発事故のために復興が進まない実情を現地ガイドの方の説明を受け、事故を経験した武藤類子さんとの交流し、学びを深めてきました。

■ 学生の感想から

福島に着いて何よりも感じたのは、震災・津波の恐ろしさでした。ガイドの方が「元々は住宅街だった」と言った場所には何もなく、田んぼだったところは荒地が広がっていました。それは津波がすべてを飲み込んでしまったことを表現しているようでした。二日目には、事故を起こした福島第一原子力発電所の知覚まで行きました。そこには家が形としてはあるものの中はぐちゃぐちゃになっている建物、海岸近くの小学校が震災の時のままの状態、時計も震災の時のまま止まっていました。

今福島という場所を取り戻す作業が少しずつ続けられています。でも、原発事故が原因で戻らないこともあります。一年生みなさんに、来年、どれだけの方が福島に帰ってきているのか、どれだけ福島が戻っているのか、是非みなさんの目と心で感じてほしいと思います。

生活と文化 を考える 利賀村

由田 新

■ 日程：平成29年9月10日～9月17日（7泊8日）

場所：富山県南砺市利賀村

費用：10万円前後（交通費込）

■ スケジュール

9/10(日)：移動（千葉→富山→利賀村）／こどもみらい館見学

9/11(月)：保育園にて保育参加・農業体験（選択）

9/12(火)：保育園にて保育参加・農業体験（選択）／岩魚つかみ取り・そば打ち

9/13(水)：保育園にて保育参加・

9/14(木)：保育園にて保育参加・農業体験（選択）／相倉合掌集落（世界遺産）見学／紙漉き体験

9/15(金)：保育園にて保育参加・農業体験（選択）

9/16(土)：農業体験

9/17(日)：移動（利賀村→富山→千葉）

+村の方々との交流（民泊）・学生たちの共同生活

■ 概要

富山県の山の中で約1週間の村の暮らし体験を行います。コンビニをはじめ都会的なものは一切ありませんが、村の方々の暖かい気持ちはいっぱいあります。人と人のつながりが濃く残る地域での生活を通して、自分たち自身の暮らしを見つめ直したいと思います。

■ 学生の感想

・保育所に行ったことが、私の中では強く印象に残っています。今まで実習に行った園と違うと感じる点がいくつかありました。今まで私が見てきた保育所では、何かいけないことをしたらすぐに注意する、大きな声で伝える、礼儀正しくさせる、そして時間に追われ子どもたちが自分でやる機会が少ないということがありました。しかし、利賀村の保育所は雰囲気が違うと感じました。人数が少ないというのもあると思いますが、常に楽しいという雰囲気で、子どもたち自身がやりたいと思ったことはやれるような場を用意していました。しかし、好き勝手にしているということではなく、メリハリがあり、集まる場面では話を集中して聞くことができていました。乳児のクラスでは、1歳半のこが自分である程度着脱・排泄・手洗いなどしてこの年齢でも、自分でやれるような環境にあれば、できる力があるのだと改めて感じることができました。保育のやり方で子どもたちの姿が変わってくることを強く実感しました。

・利賀村では、わずか11人という人数の少ない保育所に行きました。人数が少ないと、遊びが限られてしまったり、沢山の子と関わることもできなくなってしまうという面もありますが、少ないことで保育者が一人ひとりにかかる時間も気持ちも違い、たくさん関わり、見守ってあげることができると感じました。人数が少ないため、自然と縦割り保育になるのですが、年齢が上の子どもが自然とお兄さん、お姉さんになり年齢の下の子どもたちをみてあげたり、年齢が下の子どもたちもついていこうという気持ちになっていることも、素敵なことだと思いました。

・利賀村は、自然豊かで、初めて見るもの、食べるものが多かったです。生魚は、好きではなかったのですが、新鮮でとても美味しかったです。

農作業体験では、草刈りや畑仕事、イノシシ被害にあった畑に札をつけたり、お米の袋

に名前の印を押すなどを行いました。どれも初めての体験で、短い期間でしたが、作物を作る大変さがわかりましたし、どこにどういふ作物が育ちやすいのかなど教えていただきました。農作業の体験は一人だったので、緊張しましたが、村の方々は気軽に話しかけてくれたり温かく迎えてくださいました。村の方々のお話は、都会では聞けないことが多く、とても楽しかったです。

昔ながらの生活が残っている村で一週間やっていけるか不安でした。なぜなら、私の住んでいるところは欲しいものはすぐ手に入るし、便利なものがたくさんあるので、困ることはなく、その生活が普通だと思っていたからです。しかし、村の方々が不便だとは思わず、周りの人たちと助け合って過ごしている姿を見て、そういう生活もいいなと思いました。普段、便利だからこそ、作る大変さや食べ物大切にといった「当たり前」のことに気付けなかったのだと感じました。

・岩魚のつかみ取りや、草刈り、囲炉裏でお餅を焼いたり、普段の生活では体験できないことをたくさん体験できました。村の方々はとてもいい人たちで温かく、最初は民泊が少し不安でしたが、今は、いろいろと話すことができ本当に良かったと思います。ご飯もとても美味しく、普段は、朝、胃に食べ物が入らないのに美味しすぎて食べ過ぎるくらい食べて、それはとても幸せなことなのだと感じました。自分の住んでいる環境とは異なるところで生活することは、とてもよい経験になりました。

富士山の頂から観る

石井 章仁



この研修の目的は、富士登山を通して、自然と文化及び挑戦する心を育むために行っており、今年で4年目となります。特に、この体験を通して、学生は人と触れ合いや仲間との助け合い、1つの大きな目標を達成します。今年度の富士山への挑戦者は10人でした。事前に筑波山（5月）高尾山～陣馬山（7月）で調整しました。富士山には、9月7～9日の2泊3日の行程で登頂を目指しました。

■日程（富士山；旧吉田ルートで、標高809mから頂上を目指す）

1日目：新宿を8:30発～富士山駅11:00→五合目佐藤小屋18:00着

2日目：朝佐藤小屋を出発9:30→16:00頃、本八合目胸突江戸屋着

3日目：起床2:00→出発2:30→山頂着5:00→お鉢巡り→最高地点→下山7:00→五合目着11:00

■ 参加学生の感想

◇ 小柳葉月

フィールドワークのなかでどれかには参加したく、1番達成感を味わえる富士山を選ぼうと思いました。最初から富士山に登るのかと思いきや、その前に2回他の山登りに行くと聞き、最初は「大丈夫かな」と思いましたが、今思えば、最初から富士山に登るとか無謀だったなとひしひしと感じます。

山登りは、荷物がとても多く重く、すごく歩き、辛く、どうしてこんな山に登っているのだろうとすごく思いました。しかし、登っている途中、普段はなかなか話さない友だちと声をかけあったり、心配しあったり、また友だちの知らなかった一面を見られたりと、嫌なことばかりではなかったと感じます。何より、自分で自分に自問自答し、山の空気を吸いながら色々なことを考える時間は有意義なものだと感じました。普段はそんなに考えることもないので、いい機会だったと思います。





富士山に登って、小屋の方や、通り過ぎる人たちとコミュニケーションを交わし、色々な人に出会う中で、普段はなかなか人とうまく話せない自分も、ここまで登ってきた達成感からか堂々と話すことができ、楽しかったと感じました。

辛かった山登りを、みんなで頂上まで登りきり、見た御来光が素敵すぎて、今までの苦労が全て流れるような達成感で心がいっぱいになり、自然と涙がこぼれそぎました。この、フィールドワークで、みんなと協力すること、みんなで一つの目標を作り達成し、充実感を味わえることを知ったので、これからの人生で何事も諦めず、人と協力するというように、生かしていきたいと思います。そして、0号目から、頂上まで登りきったことをこの先一生、人に誇りにして生きていきたいです。

◇ 岩地実花穂

私は前から1度は富士山に登ってみたいという思いがありました。富士山に登る前に4つの山に登りました。登山自体全くした事がなかったので初めは凄くキツかったのですが、友達と励まし合いながら登ると、頂上にはとても素晴らしい景色が広がり、達成感を味わうと同時に、富士山に登りきれぬのか不安になりました。

富士山は、実際、練習で登ったどの山よりもキツく、特に3日目の頂上アタックをした時は疲労と寒さで途中、挫折そうになりましたが、友達が励ましてくれたおかげで登り切れたと思います。登った時の達成感と景色は、今までで1番綺麗で、自分達は雲の上まで歩いて来たのだと感動しました。

また、全員で登りきる事が出来て本当によかったと思いました。このような機会は今後少ないと思うので、素晴らしい経験ができたと思いました。

◇ 伊丹恭華

富士山に登ろうと思った理由は、やっぱり日本一高い場所に自分の足で登ってみたいと思ったからです。

登っている最中は同じような道がずっと歩き歩いても歩いても終わらない気がして辛かったです。しかし、一緒に登ったみんなの優しさを感じることができました。辛い思いをして見た、御来光はすばらしい景色でした。

◇ 坂田将

参加した理由は、一度でもいいから登山を試みたかったためです。富士山に登り、予想よりかなり辛かったです。高山病にかかったから余計辛かったです。今後の人生には、役立つかわからないですが、それでも仲間と何かを達成することはとても気持ちの良いものだったと思いますので、仕事とかでも仲間と共に楽しめるといいと思いました。

世界の最貧国

カンボジアの 子どもたち

伊藤 恵里子



■ 概要

カンボジアは世界の最貧国の一つであり、多くの人が一日2ドル（約200円）以下での生活という絶対的貧困状況の中で暮らしている。そうした状況にあるカンボジアの孤児院や障害者自立生活センター等を訪問し、子どもたちと遊び、触れ合う中で、子どもたちがどのような暮らしをしているのかを考える。また、カンボジアは30年ほど前に同じ国民同士が戦争を行い、国民の約5分の1が虐殺された国でもある。そうした歴史をふりかえる中で、「平和とは?」「人間とは?」ということに参加者皆で考える。

■ スケジュール

- 9/7 成田空港発 プノンペン空港着
- 9/8 障害者自立生活センターにて淑徳大学・植草学園大学の学生とともに交流会
- 9/9 ウドン州訪問 プノンペン大学の学生との交流会
- 9/10 キリングフィールド&トゥールスレン収容所訪問
- 9/11 A児童養護施設・B児童養護施設訪問
- 9/12 C児童養護施設訪問 ふりかえり&打上げ
- 9/13 市場で買い物 ガイドのナットさん宅で交流会 プノンペン空港発（機内泊）
- 9/14 成田空港着

■ 学生のレポート

◇ 今、私にできることはなんだろう」國吉 桃花

今の私にはなにができるかと考えたとき、私はカンボジアに行って子どもをたくさん笑顔にしたいと思いました。笑顔にするために何ができるかなと考え、学校などで募金や支援物資を集めたり、小さいことからコツコツとやっていく必要があるなと思いました。また、クメール語を覚え、子どもと楽しく会話をできるまでになる必要もあると思いました。今回は全くしゃべることができず、子どもが楽しくしていても自分にはよくわからず、そこから話を進展することもできませんでした。ですので、時間をかけて勉強しなければならないと思います。

また、カンボジアの歴史について知ること。今回はただの好奇心で行かせてもらいましたが、調べずに行ったので何も知りませんでした。こんなに辛い過去があるとは思いませんでした。ふりかえりの時に言っていたように、たった一人の力では何もできないかもしれないけれど、人が集まっていくことで、何か少しでも子どもにとっていいことができるのではないかと思います。

今回のフィールドワークで感じたことを忘れずにいたいですし、そのおかげで自分の生活にも目を向けることができました。

◇「今まで見えていなかった世界、そして感謝」

丹羽 叶花

ある日の夕食、屋台でご飯を食べていると、大人びた顔でお金を求めるストリートチルドレンの姿がありました。その隣には、子どもを抱きかかえ、手を合わせ続ける親の姿も。明日も生き延び、朝を迎えるために、必死に歩き続け、お金を求める人の姿。そこには、今までの自分の日常の生活にはない、かけ離れた世界がありました。しかし、日本にも、ただ自分には見えていないだけで、きっと自分の想像以上に過酷な生活をしている人がいるのではないかと思います。カンボジアと照らし合わせながら、19年住んでいても見たことのない世界を見ようと、見る視点を持とうと強く思いました。

最後に、カンボジアに行くことができ、その経験をしたと強く思うきっかけと出会うことができ、本当に良かったと思いました。

しかし、カンボジアに行く経験は一人ではできませんでした。行くきっかけを作ってくれた明德の先輩方とカンボジアの子どもたち、行くまでにたくさんの準備をしてくれた伊藤先生と加藤先生。送り出してくれた両親、たくさんのことを教えてくれた小木曾さんとナットさん。そして、一緒にたくさんのことを共有した10人の友達。いつも同じように、学びが起きた時、端から端まで関わった人すべてにありがとうと言いたくなってしまいますが、今回はいつもより、どんなことよりも、夢まで与えてくれた人たちに感謝したい気持ちでいっぱいです。



SENSE OF WONDER IN NEPAL



福中儀明・鶴田 真二

■ 行き先：ネパール リナモッチェ・ハイスクール

■ 日程：2017年9月8日～17日

■ 到達目標・概要

ネパール西部に位置するディリチョール村にある千葉明德学園の姉妹校「リナモッチェ・ハイスクール」を訪問します。参加学生はこどもたちに対して行う授業や村人との交流を通して、言語・文化・宗教等が異なるネパールの暮らしを体験します。この体験は、ネパールの教育や暮らしについて知るだけでなく、日本の教育や自身の暮らしについて見つめ直す機会となっています。

■ タイムスケジュール

9/8 成田空港集合 成田発 バンコク着 バンコク泊

9/9 バンコク発 カトマンドゥウ着 世界遺産（ダルバール広場）見学 カトマンドゥウ泊

9/10 カトマンドゥウ発 ネパールガンジ着発 ジュムラ着 空港から徒歩でディリチョール村へ（約15km） 研修所泊

9/11 姉妹校にて授業 村人との交流 研修所泊

9/12 ティルク村訪問・登山 村人との交流 研修所泊

9/13 ジュムラ発 ネパールガンジ着発 カトマンドゥウ着 カトマンドゥウ泊

9/14 世界遺産（パシュパティナート等）見学・老人ホーム訪問 カトマンドゥウ泊

9/15 市内散策 カトマンドゥウ泊

9/16 カトマンドゥウ発 バンコク着発 機内泊

9/17 成田着 成田空港解散

■ 学生の感想

※参加学生は、研修終了後、次の3点についてレポートを作成しました。

(1) 「参加の目的・研修を通じて見たことや感じたこと」

(2) 「村での授業（何を、どのような目的で、どのように行い、何を感じ考えたか）」

(3) 「研修全体の目的について（1.ネパールの教育困難についての理解 2.途上国に対して日本にできることの提案 3.日本の教育困難についての理解）」

以下、レポートからの抜粋です。



◇ 授業を通じて…

学校に行き学ぶということが、本当に楽しいのだと思いました。授業で「かぶとの折り紙」をしている時もそうでしたが、こどもたちが目をキラキラさせて話を聞いている姿が見られました。私は、学校に通うのも当たり前、勉強ができる環境があるのも当たり前とっていました。さらに、小学校・中学校は義務教育なので、小学生くらいのこどもが昼間に遊んでいるのも驚きました。しかし、そのような環境で過ごせて嬉しいことなのだと感じました。また、ネパールの学校は暗くて、机もイスもボロボロ、テストは外で行うなど、日本との違いがいくつか見られました。しかし、そのような環境でも先生の話聞いて、一生懸命に授業を受けているのかと思うと、意識が高いと思いました。(石毛希波)

◇ 人々との交流を通じて…

ネパールで出会った人は、とても優しい人が多いと感じました。ディリチョール村で出会った女子高校生4人は、村に来た私たちに何もできないことが残念だと言ってくれたことがとても印象的でした。また、言葉の通じないもどかしさや、言葉が通じることの大切さが分かりました。伝えたいことや会話をしたくてもできない経験をしたことがなかったので、今まで、言葉の違いを意識することがあまりありませんでした。なので、この経験を通して、言葉の大切さを改めて知ることができました。

(小野寺晴香)

◇ 研修を通じて…

このフィールドワークでネパールの文化に触れる貴重な経験をしましたが、それ以上に普段の生活にはない「出会い」がありました。ガイドと通訳をして下さったお二人、村のこどもたち、ジウムラ空港で偶然会った日本人の方、そして一緒に同行して下さった方ともこの研修に行かなければ会うことはありませんでした。沢山の出会いに感謝します。千葉明德短期大学に入学して勉強を始めてから自分が知らないことが多いことに気付きました。そして知ることは考えることにつながると思うようになりました。このフィールドワークでも沢山のことを知り考えました。社会に出てからも知ること続けていきたいと思います。

(渡邊裕香)



わくわく 体験研修 報告会



■ 10月31日（火）に「フィールドワーク～わくわく体験研修～」の報告会がありました。現地で様々な体験をしてきた2年生が、1年生や現地に行かなかった2年生に向けて、どのような体験・学びをしてきたのか、写真・エピソードを交えながら報告してくれました。

「報告会」に参加した1年生の感想をいくつかご紹介します。

●先輩方の話を聞いて、どんなことをするのか具体的なイメージをすることができました。どの場所に行っても良い学びにつながるような体験ができると思いました。本当にありがとうございました。

●現地の子どもたちやホストファミリーと過ごすことで、旅行だけではわからない現地の人の生活・文化を知りたいと強く感じたと同時に、新しい価値観・視野を広げたいと思いました。

●それぞれの先輩方が様々なところで学び、その学びや楽しさがよく伝わってきました。本当は外国のわくわくは行かないつもりだったけど、今回お話を聞き、とても興味が湧きました。これからじっくり考えたいです。

1年生にとっては、来年自分がどのフィールドワークに参加しようか考えるための貴重な機会になったことでしょうか。有意義な時間を過ごすことができました。

保育所・施設 実習に向けて

学生編集委員



吉野幸男 (編) 『子どもに大人気 手あそび 指あそび』
1988年、ドレミ楽譜出版社; 改訂版

【手遊び】

■ 0-1歳児の手遊び

- いとまき
- パンダ うさぎ コアラ
- まあるいたまご

■ 2歳児の手遊び

- はじまるよ
- とんとんとんとんひげじいさん
- パン屋
- キャベツの中から

他にもたくさんあるので聞いてみてね!

【ペープサート】

- ふうせん
- コンコンクシャン
- だるまさん

【エプロンシアター】

- はらぺこあおむし
- だるまさんシシーズ
- ふしぎなぼけっと

今回は一年生の実習が近いということで、実習に役立つ内容を考えました。
この中には二年生が昨年実際に保育所でやっていた遊びもあります。自分で手遊びノートなどを作って
みても良いかもしれませんね。

学びのある実習になるよう、一年生を応援しています。

そして、実習準備をがんばる一方、学内でも行事を楽しむ一年生の姿も見られました。





10月31日ハロウィンは皆さんどのように過ごしましたか？

短大内では高校の制服を着たり、ハロウィンのグッズを身に付けている学生も多く見られました。

ところで、皆さんはハロウィンの意味は知っていますか？

元々はヨーロッパを起源とする民族行事で、キリスト教諸聖人の日の前夜祭りがハロウィンと呼ばれるようになったそうです。意味としては、秋の収穫を祝い悪霊を追い出すお祭りでしたが、現在では本来持っていた宗教的な意味合いはほとんど無くなっています。

ではなぜ仮装をするのでしょうか。

古代ケルト人が行っていた宗教的な行事である【万聖節】は、11月1日が新年であり、その前日は一年の終わる日と考えられていました。万聖節を英語表記すると All Hallows、その前日であることから All Hallows 'Eve と称され、それがなまってハロウィンと呼ばれるようになりました。

そして年が明ける前の10月31日の夜には、この世とあの世を隔てる扉が開け放たれ、死者がやってくると言われていました。

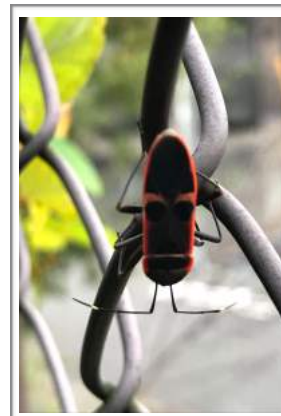
しかしその時、死者に混じって魔物や魔女もこの世にやってきて、生きている人間から魂を奪おうと言われた為、人間だと分からないよう、人々は仮装をするようになりました。

来年も楽しいハロウィンになりますように。Happy Halloween！！



1年生の フォトギャラリー

先日、心地よい秋晴れに恵まれ、1年生の「あそび基礎演習：造形表現」の時間に思いきって外に出ることになりました。近所であって、今は住宅開発地となった元自然保全地区をゆっくり見て歩き、自然の素材を拾い集め、大百池（おうどいけ）のデッキ上に並べて「ランドアート」を楽しんだついでに素敵な写真も撮ってくれました。「視点」とは何かについて学ぶ上でもよい機会になりました。その一部を『月歩学歩』で皆さんにおすそ分けします。フォトグラファーは鷺津有紗さんでした。（深谷）

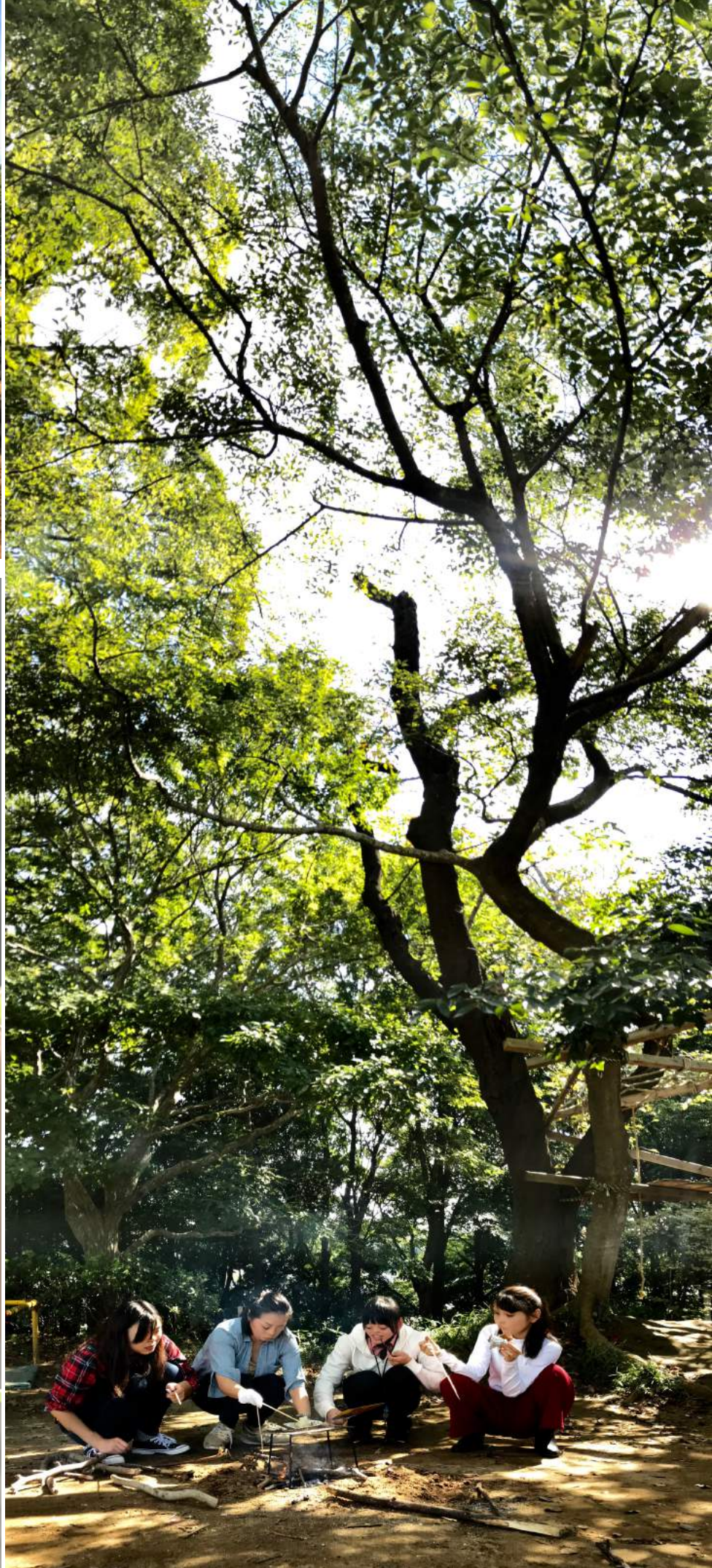




編集者後記

9月から遠出したり授業を外で行ったりする機会が多くなります。2年生のフィールドワークはもちろんですが、後期の通常授業が始まる10月からは1年生も、機会を見つけては外にお誘いします。附属幼稚園の園庭を貸して頂き火遊びを体験したり、砂場遊びを再体験したり、住宅開発が始まったため消えつつある自然に触れたりします。

高校までは長年の間主に教室の中で過ぎて来た日々。自然や身近な生き物と出会う機会があまり多くなかったようです。でも、短大を卒業すれば、わずかな例外を除けば皆保育者となり、子どもたちと一緒に外で過ごす時間も多くなります。自然に触れることはどのような感覚体験なのか、言葉で伝えることは難しい。図鑑を見たり、鳴声を聞いたりするのは簡単ですが、いわゆる五感の内残りの3つは表現し難いため自分で触ってみるしか知る方法がないですね。



◀10月 明徳の自然



学事日程

12月

1日 (金)

❖ めいとくほうたう
(教職員・学生コンサート)

8日 (金)

❖ 教育実習I (1年生)

16日 (土)

❖ A0入試6期

❖ スタートアップカレッジ

23日 (土)

❖ 冬季休業開始

27日 (水) ~1月4日 (木)

❖ 事務室閉室

1月6日 (土)

❖ 冬季休業終了

